

令和7年度第4回今治市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和7年9月24日（水）13：30～15：00

場 所 今治市役所 第2別館11階 特別会議室3・4号

出席者

・委員：土居 忠博，窪 仁志，松本 真一，川田 卓哉，佐津間 英樹，
平野 勇夫，谷口 政賀津，赤尾 宣宏，星川 菜津美（代理），町田 一益，
仲岡 禎和，佐藤 照人（代理），金尾 憲明，正岡 義晶，井川 達也，
山崎 昭二，阿部 克也，横山 勲，山本 悟史，松浦 和仁
（欠席）丹治 靖代，砂田 篤志，清水 駿，村上 恵子，松村 暢彦，
山本 美恵子

・事務局：

地域振興部 地域政策局 地域振興課

村上地域振興部長，村上地域政策局長，越智課長，越智課長補佐（兼）室長，

八塚課長補佐，川崎係長，八木係長，長野主事

1. 開会

地域振興部長：

ただ今から令和7年度第4回今治市地域公共交通活性化協議会を開会させていただきます。
私、地域振興部長の村上と言います。お手元に配布の会次第に従いまして進めさせていただきます。
本協議会の委員につきましても、お配りしております委員名簿のとおりとなっております。
また、本会は原則公開でおこなうこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、開会にあたり今治市副市長土居忠博よりご挨拶を申し上げます。

2. あいさつ

土居会長：

皆さんこんにちは。本日は皆さん大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。もう彼岸も過ぎてようやく朝晩少し涼しくなってきましたが、まだまだ暑さこたえる日々が続いております。また、9月上旬ぐらいまでダムの水がどんどん無くなり、9月上旬で60%切るぐらいまでいき、なにかそろそろ渇水対策本部も開かないといけないなんて話をしていたんですが、この1か月でまとまった雨が降ってくれて、玉川ダムにしても今貯水率が80%ということで、ほぼほぼ平年並みの貯水率が確保できて今年は断水にもならなくて済みそうだという今状況にきております。そのなかで今回公共交通活性化協議会を開催いたしました。本日は、新しい地域の足の確保のために様々な取組も始まっていますので、そちらのほう協議案件1件と報告案件2件ございますので、よろしくお願いいたします。いずれにいたしましても本市としましては、地域の皆さまの足を確保するために、既存の事業者との共存もしっかり図りながら、限りある財源も有効に活用しながら、地域公共交通の維持・発展、あるいは新たな公共交通の取組への実証等も進めまして、地域の皆さまにとって一番ベストな地域公共交通の施策をこれからも模索してまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。それでは、本日忌憚のないご意見をどうかよろしくお願いいたします。

地域振興部長：

ありがとうございました。続きまして、次第3、議事に移ります。ここからの進行は、会長であります土居副市長にお願いいたします。

3. 議事

（議案1）伯方島公共ライドシェア実証運行について

土居会長：

それでは、議事に入らせていただきます。まず議案の第1号になります。伯方島公共ライドシェア実証運行について議題とさせていただきます。まず、事務局から説明を申し上げます。

地域振興課長：

資料 1、2 を説明

土居会長：

ありがとうございました。ただいま説明ありましたが、関連しますのでこのあと引き続き Community Mobility の山口さんのほうから概要について説明をいただけますでしょうか。よろしくをお願いします。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

資料 3 を説明

土居会長：

ありがとうございました。これまでの説明いろいろございました。もう一度資料 1 のほうに戻っていただきまして、今回の伯方で実施する公共ライドシェアの実証運行ですが、一番のポイントは貨客混載で取組むという話です。そしてそのライドシェアをしていただくドライバーについては自家用車・白ナンバーを使っていいという話と、ドライバーの方も二種じゃなくてもいい、第一種免許で構わないということです。そういう形ですすでに 12 名、ドライバーの方もある程度目処をつけていただいています。この貨客混載の取組ってというのは全国的にはいくつかあるのですが、四国では初めての取組になってきます。そのなかで伯方の自治会の皆さんにもご協力いただき、あるいは mobi さんが事業主体として、荷物についてはローソンさん、あるいはイオンモールさんにも一部そのドライバーの募集、集客の協力とかもしていただく、FC 今治にもご協力いただくという形でいろんな方のご協力をいただいて実証実験をするということです。順調にいけば今年の 11 月、荷物のほうは 12 月から 1 月末ぐらいまで実証実験をしていき、その先のことはまたその実証の結果を十分検証して考えるというのが現状です。それをベースにしてそれぞれの皆さんからご意見等も順次お伺いいたします。地元で中心になってやっていただく阿部委員、なにかありますか。

阿部委員：

ちょっと困っていたところこの会でも朝倉とか吉海でいろんな実証をされているというのは

聞いてまして、伯方島ではどうかなどうしようかなと話してるところにこういった話がきましたので今期待しているところです。実証して利用者が増えて、この12名のドライバーの登録者がどんどん増えていき、これが伯方島のリクエストにはまれば非常に良いかなと思っている。これが島内だけです。島外とどのようにこれを連携していくか、もちろんこの実証が上手くいったからの話ですけれども。次の課題は、島外とどのような形で繋ぐか、勿論せとうちバスさんとバスで繋ぐというのがあるのですが、急遽どうしてもというようなときはタクシー事業者さんと連携できるようなことは連携して、もうちょっと広げていき実際良いものにできればと思っています。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

土居会長：

ありがとうございます。前から伯方島の中でもう少し便利な交通をとということで、ずっと阿部委員中心にいろいろ地域の人で考えられて1つの形としてこういうものもやってみようかということで、今回手を挙げていただきました。そういうなかでひとつ考えとかなないといけないのが、もしこれが上手く回りだしたとき、結果としてバスの利用者が減り、バス路線がなくなってしまうことがあることも考えておかないといけない。そのあたり瀬戸内海交通の佐津間委員、今どれくらいの利用があり、どれくらいになってしまうとバス路線として維持できなくなりそうだななどそのあたりの目安はありますか。

佐津間委員：

今具体的に何割減ったらどうなるという数字をもっていないのでなかなかお答えしにくいところはあり、定期券収入とかが高校生の人数が増えたり減ったりそういった関係もございまして、一概にどのくらい減ったら路線バスがなくなるとか申し上げにくいんですけれども、前回もご説明いたしましたように今100%赤字の補助をしていただいている路線です。これが一定程度人数が落ちるとその要件から外れるので、補助金が半分に減ってしまいます。そうになると企業努力ではもうどうすることもできなくなりますので、速やかに撤収ということになるかと思っています。

土居会長：

ご説明ありましたが、ある程度利用者が少ないがゆえに国や県に補助金を出してもらってお

り、今は赤字分の補填をしてもらってる。でも、少ない人数がさらに少なくなってくるともうそれは補助対象ではなくなってしまうということでした。そうなって、補填がなくなるとバスの維持も非常に難しくなってくる。この公共ライドシェアを今後どんどん増やしていくとなったら今度そちらのバス路線のほうも心配していかないといけないのかもしれない。そのあたり非常に難しくなってくると思うんですけども。

阿部委員：

朝夕は学生の利用が多いのでそこはサービスを維持してもらおう。メリハリをつけてもいいのではないのでしょうか。ライドシェアもいい、公共交通機関もいいと、メリハリをつければ良くなる部分もあると思う。そうして将来的に公共交通も充実ができればよい。まったくバスがなくなるのも困るので、実証で走らせながら考えないといけない。

土居会長：

先ほど阿部委員からお話ありましたように、しまなみ3島の中心が伯方にあるものなので他の島、3島間の交通もどうするのかも考えないといけない。バス路線も動かしてもらうのかあるいは朝夕だけは通学生の足として借上げバスとして走らすのかも含めて全体的に見直していないといけないと思っており、現状新しい路線を考えることは可能かどうか。

佐津間委員：

現状、新しい路線で補助金をもらうのは難しいのではないかと思っております。

土居会長：

ありがとうございます。ほか、ご質問等ありますでしょうか。

川田委員：

お伺いしたいことが2件ほど。1件目は終わりのほうで説明されたドライバー概要で、募集

をかけて講習をしてという一連の流れは Community Mobility さんでやられる。ただ資料 1 の中には島しょ部タクシー事業者が運行管理を担うと出てくるのですが、このあたりの流れの整理をお伺いします。2 件目は、資料 1 の中で運賃が事前予約は 400 円、直前 600 円とかありますが、この決済方法はどうかされるのか。現金なのかそれともサブスクみたいなのを考えるのか。この 2 件についてお伺いしたいと思います。

山口様 (Community Mobility 株式会社) :

まず、ドライバー概要のところのご質問について回答させていただきます。一連のこの流れについては弊社のほうでサポートし、実際に運行を開始して毎日ドライバー様の運行管理をするところについては、島しょ部のタクシー事業者様に実施していただく形となります。我々のほうは公共ライドシェアのドライバー様の募集から講習含めてのところまでをしっかりとサポートさせていただきまして、実際の講習については、国交省様のホームページ上に公開されている大臣認定講習の事業者様にお願いし、これから伯方島でこういった講習もさせていただきながら進めていくというのが全体概要です。2 つ目のご質問に回答させていただきます。基本的には現金という形です。ただ、ライドシェアの場合、事前にお客様が Web 予約する際にはクレジットカードで決済することも可能にしております。なので、今回は特にサブスクとかはなく、1 回 1 回の料金という形になります。

土居会長 :

貨客混載の荷物だけの場合も同じですか。

山口様 (Community Mobility 株式会社) :

荷物のほうは現金のみとなります。

川田委員 :

私どももバス会社で毎日バスを走らせているなかで、どうしてもネガティブな話ばかりで申し訳なく、走る前から縁起でもないことを言うのですが、やはり運行に関しては事故とかはつきものです。募集要項を見てたらあくまでも雇用形態が業務委託契約ということは、もしなに

か事故が発生した場合は、そのドライバーの持ち込んでいる乗用車の自動車保険で対応するということでしょうか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

保険に関しましては、今回弊社側のほうで加入させていただく保険のほうで対応できるようにする予定です。保険の対象は車となり、対人対物の保険を手配させていただく形で確認を進めております。

土居会長：

今 12 名のドライバーで出ていますが、その人達はどこに雇われている形になるのでしょうか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

それは弊社となります。

土居会長：

mobi さんと業務委託契約をして、なにかあって訴訟になりましたとあれば mobi さんが責任をもってやってくれる、12 名の個人個人がやらなければいけない、という話ではないということですか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

おっしゃるとおりです。

土居会長：

しまなみ商工会の井川委員、島内でこういう動きがあるということでなにかありましたらお

願います。

井川委員：

乗降ポイントが150あるので、利便性が高いのではないかなと思うが、既存バスとも共存をはかって欲しいです。通院でも助かるのではないかな。貨客混載のほうですが、こちらは四国で初めての取組ということで、今全国的に買い物難民の問題、課題も非常に多くなってきており、高齢化して買い物がなかなかしづらい、例えば重たい物や大きい物の買い物が不便だという方も増えてきているというなかで、このような買い物代行をしていただけるというのは、今後非常に有り難いと思います。事業者側としても、それによりお客様が増えるのであれば、メリットあると思います。現状7店舗の方が協力していただけるということで、一部商工会としても協力をさせていただいた部分もあるのですが、お客様の利便性が上がる店舗になっているのか気になるところです。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

お店のほうは、実際に今回調査させていただいた結果も踏まえて、特に利用が高そうな日用品、それから島ならではの店、ご紹介いただいた店舗も含めて、こういった取組に賛同いただけた方と今回はやっていく形を想定しております。

土居会長：

すぐに思い浮かぶのは伯方島のザグザグさんですが、そういうところに入らないのかなと思ってらるんですが。

地域振興課長：

現状、この7店舗の中にドラッグストアであったりスーパーであったりが入っておりますので、日常生活にあたっての商品はカバーできているのではないかと考えております。

土居会長：

ということは、ザグザグは登録できないということですか。それとも入ってくれるのであれば OK ということですか。

地域振興課長：

それにつきましては、入っていただけるということであれば加入いただくことは可能かと思っております。

土居会長：

mobi さんのほうはそういうことでよろしいですか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

はい。

土居会長：

伯方警察署の佐藤さん来られてますけども、なにか問題等ありましたらこの場でお願いいたします。

佐藤委員：

警察としては、運行管理をタクシー会社さんがされるというところでドライバーさんの飲酒について。当然タクシーの運転手さんは毎日本社に出社してアルコールチェックしてからそれぞれ仕事に出ていかれるわけですが、ライドシェアという形になれば一般の方になりますので、毎日出社するというわけでもなくそのあたりの管理をどのようにやっていくのかという点。あとは安全運転管理者の登録の関係で、どちらが主でやっていく形なのか。今回 12 名の方で台数が 10 台を超えるような形になってきますので、その安全運転管理者は誰がやるのか。運行事業者のタクシー業者さんであれば、当然台数が変わってくることになりますから登録の変更が必要になってくることになります。また、今後警察として警戒しているのが白タクで

す。一般の方が許可も得ずに運行されているのがいわゆる白タクというものです。当然こういったライドシェアの事業が始まり、そういった白タクも実際全国的に増えてきているということもあります。そのあたりをやはり警察署も警戒しており、しっかり区別がつくように標示等をしていただければと思います。あと、今後登録者が増えてくれば当然台数も増えてきますので、そのあたりの維持管理もどのようにやっていくのかということも今後検討していけたらと思います。

土居会長：

今ご指摘のあった安全運転管理者につきまして、こちらは mobiさんのほうで運用管理されるんですか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

今回実際に運行管理のところは島しょ部のタクシー事業者様のほうに今回お願いをさせていただくことを想定しております。

土居会長：

業者はどこを想定されているのか。

地域振興課長：

現状、上浦交通さんをお願いする方向で考えております。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

実際に今回ドライバー様のほうに運行を開始していただく前にアルコールチェック等を遠隔でやる仕組みを弊社のほうから提供いたしまして、そちらを使って実際に始まる前に点呼、アルコールチェック等をさせていただいて、運行管理の事業者様で OK であるところの確認を以てドライバーの業務をしていただくというオペレーションで進めさせていただければと思ってお

ります。

土居会長：

先ほどご指摘のあった白タクとの区別がちゃんと付くようになにかするの。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

今回実際に運行いただくドライバー様の車に、この取組を実証していることを証明するマグネットステッカーのようなものを貼る形をとる予定です。運輸局様からもそのように定められておりますので、番号含めてそういったもので分かるようにするという形をしっかりと取りたいと思っております。

土居会長：

そのあたりはしっかりとやっていただければ警察署のほうも OK ということでしょうか。ほか、なにかご質問等ありますでしょうか。

山崎委員：

観光協会の立場から思っていることなんですけども、今回観光客の方も対象だと思うんですが、観光客の方から問い合わせがあったときに、島しょ部ではタクシーが少ないので、足をどうすればいいというお問い合わせがあったときに mobi さんのような地域交通があれば、台数が増えれば、観光客に対しても良いと思います。先ほどから安全性のことが話題になっており、他の地域ですでにこういった事業をされていると思うのですが、資格のない方と通常のタクシーの方とで例えば資格のない方のほうが、事故が多いとかお客様とのトラブルが多いとか、そういう事例はあるんでしょうか。あれば教えていただきたいです。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

先ほどの資料で見ますとつくばでの事例があります。こちらは実際に住民の皆さまにご協力

いただきながらやっているところですが、そこまで大きな事故といったものが今発生してるとかといったことはありません。今まさに、実際のサービス改善も含めて並走しながら運行しているというところです。

土居会長：

今お話ありましたように四国では初めての取組です。全国的には何箇所かやられてるということで、そこで重大な問題があってもそのあたりはちゃんと今回クリアしてますであるとか特に問題は起こっていないであるとか、なにかありますか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

今のところは起こっていません。ただ、実際にドライバー様といろいろお話ししながら、これから運行の準備等させていただくときには、知見等も活かさせていただきながらご不安に思われるところなど、実際の機材の使い方とかこういったところは入念にサポートしながら進めていければと思っております。

土居会長：

そうしましたら、今のご意見等も踏まえながら最終的には今日お示ししてる資料2の四国運輸局さんに提出する書類、6.その他特記事項についてなにかありますでしょうか。

ないようですので四国運輸局愛媛運輸支局様宛に、地域公共交通会議等において協議が調ったことを証明する書類を提出したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。それでは、承認ということでさせていただきます。

（報告1）今治市内における予約型乗合タクシー（mobi）実証実験について

土居会長：

続きまして、報告事項に移ります。報告第1号になります。今治市内における予約型乗合タクシー（mobi）実証実験について、を議題といたします。事務局に説明を求めます。

地域振興課長：

それでは、報告第1号 今治市内における予約型乗合タクシー（mobi）実証実験についてご説明させていただきます。本日は先ほどの議事に引き続き mobi を運行しております Community Mobility 株式会社の山口様から市街地で実証実験をおこなっている mobi についての報告をおこなっていただきます。それでは山口様、よろしくお願いいたします。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

資料4を説明

土居会長：

ありがとうございました。運用が始まってもう3年目になりますが、いまや月々3,000人以上の方が使われているということで、地域にとってはなくてはならない1つの交通手段になっているというのも事実です。ただ、毎月赤字になっているということですが、どれぐらいの赤字なのか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

また今後の改善のときにそのへんの水準も含めてご報告させていただければと思います。

土居会長：

大赤字なのか。そうでもないのか。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

我々の会社の規模からすると結構赤字幅が大きいのは事実ではあります。

土居会長：

それでも菌を食いしばってやっていたいているという。

山口様（Community Mobility 株式会社）：

このエリアにおいて当初からいろんな方のお力も借りてここまできてるところでもございますので、なんとか改善に向けてこれから3年が終わると。次本格運行に我々もチャレンジできるかどうかという話になってきますので、そこに向けて考えていきたいなというところでございます。

土居会長：

私も時々、駅の近くから里山スタジアムのところまで利用させてもらったりして、300円で申し訳ないなと思ったりもします。一方で、本来のタクシーの業者の皆さんと競合するのかそれとも補完するのかそのあたりが大丈夫かと思ったりもします。そのあたり平野委員、mobiとの今後のことも含めてなにかご意見等ありましたら改めてお聞かせいただけますか。

平野委員：

今治駅から里山スタジアムまでタクシーだったら1900円ぐらいかかります。mobiの運行をしているのはうちの会社1ヶ所になりました。お金を突っ込むだけということで、もう1社については乗務員の態度も悪くなり、辞めてしまった。自分の会社は、昔の恩返しをしようということでやっている。油代でも出してくれたら、つり合いがとれる。mobiもうちも赤字で、バスや船などは助成が出ているがないのはタクシーだけである。助成をしてくれなかったら7年もすれば、今治で現在220台のタクシーが70～80台になってしまう。同じ公共交通として助成をして欲しい。このままいけば自家用車だけになってしまう。乗務員の数も少なく高齢者だけになってきている。2種免許取得のための講習が少し短くなることには期待している。

土居会長：

ありがとうございます。タクシー事業者さんもmobiさんも赤字覚悟でこういった仕組みでやっ

ていただいている。ただ、それもいつまでも続くわけではない。船の話もそうですが、今治の全体の地域公共交通をいろんな手法で実証とか試してやっており、どう組合せていくと一番効率的に、一番皆さんが良いような形で、あるいは利用者が助かる形で出来るかというのは、これからはっきり考えていかないといけない問題だと我々も認識してます。そういうのを順次、この公共交通活性化協議会にこれからも図っていきますので、こういう問題についてもちょっと議論しようという話があれば、今後提示していただければと思います。mobi についての報告は以上です。

（報告 2）チョイソコおおみしまの運行状況について

土居会長：

報告をもう 1 つ。大三島でやっておりますチョイソコおおみしまの状況について、事務局よりご説明させていただきます。

地域振興課長：

資料 5 を説明

土居会長：

チョイソコおおみしまについて、こちらも相当の赤字額が出ているという認識でよいのか。

地域振興課長：

現状、年間の予算額として 998 万円の計上をしています。その中で協賛金等が 70 万、利用額が 60 万ですので、大体 866 万程度の負担額、そういった状況になってます。

土居会長：

持ち出しが 860 万程度あるということですか。少しこういう便利なシステムを導入しようと思うと、やはり持ち出しがかなりかかってくることになります。そうは言っても、地域の足を

少しでも維持するためには、市も投入できる分は投入しないといけませんし、その辺のことも含めて今後いろいろ皆さんと協議をしながら、なにがベストかを考えながら今後見直しをしていかないと、このまま赤字で過ごしていくのもいけないと思います。これから少し議論を今後も深めていきたいと思ってますので、皆さままたよろしくお願いいたします。

報告事項も2つ終わりました。今日の議題は以上ですが、この際ですからなにかご意見、利用者の立場あるいは公共の立場としてなにか、どなたか。

平野委員：

mobi の件ですが、朝倉線、玉川線が停まったところから mobi に電話してきた。それともう1つは、今現在私の会社だけですが、もう1社、運輸局から認可になった会社があるんですが、結局はお金が安いから走らないだけです。少しでも皆さんのためになるのであれば、後始末もしてもらわなくては、私のほうへきていますから。覚えといていただきたらと思います。

土居会長：

ほか、なにか。JR 四国の窪委員さん。

窪委員：

今治市さんの公共交通活性化協議会、島しょ部等々あるので、他の愛媛県内の自治体の立場とは大きく違うと思います。そういう意味では、我々も興味深くいろんなところを見せていただけてもらっています。JR 四国の中で、グループとしては黒字ですが、鉄道部門は相変わらずの赤字とです。皆さんもご理解いただいていると思いますが、公共交通は安価にあるという今までの常識っていうのは少し考え直さないといけない時期に来てるんじゃないかなと思ってます。四国の公共交通が生き延びる1つの四国モデルっていうのは、いろんな交通モード、タクシーもあり自転車もあり、我々のような鉄道もあるバスもある船もある、そういう各交通モードが、それぞれの特性を、いかに発揮してそして常に連携をしていくことで、公共交通としての役割を果たせるんじゃないかなと今考えております。それに向けて我々もいろんな業者さんと連携をしてやっていこうとしております。1つ良い例が、今伊予鉄道さんと平行で走るところには、JR の定期でバスにも列車にも乗れる、といったこともやっています。宇和島では、

バスの乗車券で鉄道にも乗れる、鉄道の乗車券でバスにも乗れるということも今やっております。そういったことをどんどん広げていき、お客様の出歩く機会を増やしていけたらいいなと思います。運賃料金の話もそうですが、適正な運賃料金を受益者が負担するということは、もう少し考えていってもいいんじゃないかと個人的な意見なんですが思っております。その辺はやっていかないと、どうしても持続可能っていうところにはなかなかできないと思います。土居会長が言われるように税金をずっと投入し放っしでいいのかというところも本当に我々利用者側もちょっと考え方を変えていかないといけないんじゃないかなと思ってます。

土居会長：

ありがとうございます。当たり前のように JR があるが、その JR 路線すら無くなってしまう危機を抱えてる地域もあつたりするので、そういう意味では今お話あったように、JR と路線バスとタクシーをどう繋いでいくか、もっと言えば、港まで運んで船とどう繋げるか、そういう全体の公共交通のベストミックス、それを繋いでどうシームレスでいくかというのが、おそらくこれからの課題になってくるのだと思いますので、また皆さんいろんな形で知恵を出していただけたらと思います。

ほか、山本委員なにかありますか。

山本(悟)委員：

今日、議案第 1 号の伯方島公共ライドシェアで、会長から今後の伯方島だけでなく 3 島の交通ネットワークのあり方について、この公共交通会議で議論していきましょうっていう話があったんですけど、この地域公共交通会議は、地域旅客運送サービスの安全性及び継続性の観点から、この地域の皆さんで協議して、地域旅客運送サービスを十分確保するために、既存の事業者さんの継続性、それから自家用有償旅客運送は既存の交通資源を補完するものとして、これを組合せてこの今治市の旅客運送サービスを安全で継続的なものにしていくことが重要だと思いますので、今後も今治市の地域公共交通会議で活発な議論をよろしくお願いいたします。

土居会長：

はい、運輸局さんがいちばんしっかりと全国の事例も把握されてるかと思いますので、いろんな形でご協力いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほか、なにかありますでしょうか。

それでは、本日の協議は終了といたします。最後、事務局から連絡事項等がありましたらお願いします。

4. 閉会

地域政策部長：

特に連絡事項等はありませんので、以上をもちまして、令和7年度第4回今治市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。長時間にわたり誠にありがとうございました。